

挨拶

-1 主催者挨拶 山田 啓二 京都府知事

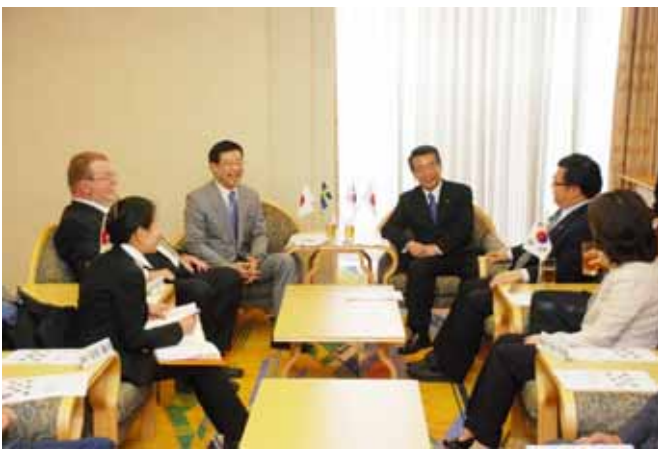
状況を含めまして、いろいろな外傷というものには予防できる。だからこそ私たち行政は、それに向かって努力していかなければならない。予防できるというよりは、できる限り予防していかなければならないのだという思いであります。安心・安全というのはまさにすべての人の願いであり、犯罪からの安心・安全、災害からの安心・安全、病気からの安心・安全、さまざまな安心・安全がありますけれども、こうした1つ1つの安心・安全はバラバラのものではなく、トータルに還元して考えていくことによって、府民のみなさま方の安心・安全を作れるものと思っています。これはハードの面でもソフトの面でも一緒であります。



交通事故を予防するために多くの人が運動を続けていく、それと同時に子どもたちの見守り活動がある、高齢者の見守り活動がある、1つ1つのハードとソフトが結びつくことにより、本当に安心・安全なまちづくりへと進歩していくという風に思っております。

その代表がこのセーフコミュニティであると思っております。そしてそれもただの運動というだけではなくて、世界の20カ国を越える国が参加し、世界中が知恵を出し合って、その安心・安全を求めていく。日本では亀岡が最初でありますけれども、亀岡から世界の安心・安全を求める国々とのコネクションが今できあがる。そのコネクションがまた京都を中心として日本へと広がっていく、という運動を展開していきたいと思っております。

私も京都府がまさに日本のセーフコミュニティの第1号として亀岡を選びましたのは、別に偶然でも何でもありません。まさに亀岡というのは、ある面では京都の縮図ではないかなという風に思っております。土地としては新しい住宅地もありますし、また古くからのコミュニティもあります。工場も誘致が進んでいる一方で、農業もしっかりと京都の大きな産業の基盤として栄えております。京都の持つ



伝統的な魅力、そして新しい未来への魅力を併せ持つ亀岡こそ私は京都のすべての要素を兼ね備えた、京都にこれを広めていく大きなモデルとなりうる地域だと信じております。こうした取組に対しまして、協力をいただきました栗山市長様はじめ、亀岡のみなさまにも心からお礼を申し上げたいと思っております。

ただ、この試みは第一歩であります。今私も認証を目指して活動しておりますけれども、認証も最終目標ではありません。本当にセーフコミュニティが確立され、亀岡が安心・安全のまちとして、そしてモデルとして日本に発信されることによって、大きな目的が達成されると思っております。

どうかその日に向かひまして、みなさまのいっそうのご尽力を心からお願いを申し上げまして、私の開会のお礼の挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございます。

-2 主催者挨拶 栗山 正隆 亀岡市長

みなさまこんにちは。たくさんみなさまに今日はご出席をいただきまして、本当にありがとうございます。亀岡におけるセーフコミュニティの推進事業ですが、8月15日に、認証の申請をWHOの方に正式にさせていただきました。そして、昨日と一昨日の2日間セーフコミュニティの第一人者でありますWHOのスヴァンストローム先生をはじめ関係の先生方に亀岡にお越しをいただいて、亀岡の取組の状況を見ていただき、審査をしていただきました。亀岡の取組の状況について、先ほど公表を聞かせていただきましたが、かなり高い評価をいただいているようです。本当にうれしいなと思っております。



この今回の認証取得に向けての取組ですが、認証は取れても、もし取れなくても亀岡は今後いっそう我々が進めてきています安全・安心のまちづくりを進めてまいりたいと思っております。どうかみなさまのご協力を賜りますように、お願いをする次第でございます。

今日はこの後、スヴァンストローム先生、それからパク先生、立命館大学の中谷先生、セーフコミュニティのモデル地区として実践をしていただいております篠町自治会の井内会長、こういったみなさまに講演をいただきますので、講演を聴いていただき、セーフコミュニティに関する理解をいっそう広めて、深めていただきたいと思います。そして、亀岡が本当に安全・安心なまちとして、今後も発展



をしていきますよう、叶う限りの努力をしていきたいと思っております。そして知事の方からも言っていただきましたが、亀岡から日本中に安全・安心なまちとして発信をさせていただきます、さらにセーフコミュニティの取組の輪が広がっていくようにしていきたいと思っております。

今日はみなさま、まだまだ残暑が暑い中をたくさんお越しいただきまして本当にありがとうございました。よろしく申し上げます。

